

柱5 未来につなぐ環境の保全・創出

（総合戦略 基本目標5 地球温暖化対策を進め、循環型社会を形成する）

○数値目標

項 目	現状値	目標値 (2025 年度)
温室効果ガス排出量の削減率※ 横須賀市域における二酸化炭素やメタンなど、7 種類の温室効果ガスの排出量（2013 年度からの） 削減率	—	23.7%以上
緑被率 みどりの全体量を表す指標として、樹木や草地な ど植物で覆われた土地の面積率	54.5% (2014 年度)	54.5%以上
市民1人1日当たりのごみの排出量 市民1人1日当たりのごみの排出量（g／人・g）	864g (2020 年度)	832g 以下

※横須賀市環境基本計画および地球温暖化対策実行計画では、2029 年度までに削減率 43%を目指しています。2025 年度時点での削減目標は 23.7%となります。

○施策の一覧

- （1）地球温暖化対策の推進
 - ①市役所の脱炭素化の推進
 - ②市域全体の脱炭素化の支援
 - ③海に囲まれた立地の活用
- （2）自然環境の保全・活用と循環型社会の推進
 - ①身近な自然環境の保全、創出、活用
 - ②環境に対する意識の向上
 - ③循環型社会の推進
- （3）公園の整備・活用
 - ①新たな公園の整備
 - ②公園のリニューアル
 - ③公園の計画的な維持管理

(1) 地球温暖化対策の推進

○重要業績評価指標 (KPI)

項 目	現状値	目標値 (2025 年度)
太陽光発電システム（太陽光パネル）を設置した市の施設数 公共施設の屋上等に太陽光発電システムを設置した施設数	10施設 (2020年度)	46施設
公用車の電動車両の導入率 全公用車のうち、電動車両（EV、ハイブリッド自動車、燃料電池自動車等）の割合	13.9% (2020年度)	28.3%
太陽光発電システム等の設置・購入に対する助成件数 再生可能エネルギー設備（太陽光発電システム）や省エネルギー機器（家庭用燃料電池システム、蓄電池等）の設置・購入に対する助成件数	5,691件 (2020年度)	7,531件 (累計)
電気自動車等の購入助成件数 個人、事業者等への電気自動車及び充電設備等の助成件数	425件 (2020年度)	725件 (累計)

①市役所の脱炭素化の推進【新規】



横須賀市も民間企業と同じ事業所の一つです。行政活動に伴う二酸化炭素排出量の実質ゼロに取り組みます。

横須賀市の公共施設への太陽光発電システム設置を進め、公用車を順次 EV 等に切り替えていきます。

また、横須賀ごみ処理施設（エコミル）でごみ焼却時に発電した電気は施設内で自家消費後、余剰分を売却していましたが、エネルギーの地産地消に向けて、他の公共施設へ供給するなど、公共施設の温室効果ガス排出量の削減を図ります。

併せて、環境に配慮した企業へのインセンティブの仕組みづくりや、環境配慮製品の導入などの検討、他の自治体や民間企業と連携した取り組みも行っています。

(主な関連事業)

公用車EV化導入事業 (P294)

公共施設再生可能エネルギー化推進事業 (P294)



②市域全体の脱炭素化の支援【拡充】



市民の皆様への支援策を強化することで、市域全体の二酸化炭素排出量の実質ゼロに取り組みます。

太陽光発電システムや蓄電池の設備購入、窓の断熱改修などを行った場合、市内商業施設で利用できるポイントや商品券を交付します。

また、EV では、車両や充電器の購入費の一部を助成するほか、民間事業者と連携した EV カーシェアリングサービスを新たに開始します。（市役所裏に2台配置予定）

併せて、国や県などを含む、役立つ情報を一元的に分かりやすくお伝えしていきます。

（主な関連事業）

EVカーシェアリング事業（P292）

エコポイント事業（P293）

電気自動車等助成事業（P295）



▲①②太陽光発電システム（パネル）

③海に囲まれた立地の活用【拡充】



三方が海という立地を生かしてブルーカーボンの取り組みを進めます。

ブルーカーボンとは、藻類などの生物が吸収する二酸化炭素のことで、その吸収量は陸上の植物に匹敵すると言われています。研究機関や市内企業等と連携して、藻類を増やすことで、二酸化炭素の吸収量を増やしていきます。こうした取り組みは、水質の改善や磯焼け対策など、自然環境の保全・再生にもつながります。

（主な関連事業）

ブルーカーボン事業（P290）



▲③ブルーカーボン

（藻類などによる二酸化炭素の吸収）

(2) 自然環境の保全・活用と循環型社会の推進

○重要業績評価指標 (KPI)

項 目	現状値	目標値 (2025 年度)
里山的自然環境の管理面積 里山的环境保全・活用事業の管理面積	約 1.9ha (2021 年度)	約 30ha
生ごみ処理機の購入費補助台数 生ごみ処理機購入費補助制度による補助台数	160 件 (2020 年度)	220 件

①身近な自然環境の保全、創出、活用【拡充】



横須賀の財産である自然環境を守り、活用しながら、将来世代に引き継ぎます。

田んぼやため池、雑木林などと集落が一体となった地域は、里山と呼ばれる日本の原風景です。この失われつつある里山の環境や景観を保全、再生し、人々が自然とふれあう場や環境教育・環境学習の場として活用します。

「みどりの基本計画」に基づき、「みどり」の保全・創出に取り組むとともに、目標年度に向けて「みどりの基本計画」の見直しを行い、必要に応じて改定します。

(主な関連事業)

- みどりの基本計画推進事業 (P296)
- 市街化区域樹林地保全支援事業 (P296)
- 都市緑地保全事業 (P298)
- 里山的环境保全・活用事業 (P299)



▲①里山の保全・活用

②環境に対する意識の向上【拡充】



誰もが環境を「自分ごと」として考え、行動してもらえるように、環境に対する意識の向上を図ります。

身近な自然に触れあい学ぶ、小学校の自然環境体験を4年間かけて全小学校で行うほか、自然環境調査、観察会を行います。

また、市民が参加する環境保護の取り組みなどをLINEアプリで通知し、参加者にポイントを付与する取り組みを新たに開始します。環境への意識を高め、行動につなげる情報発信、機会づくりを進めます。

(主な関連事業)

ゼロカーボンアクションポイント事業 (P293)

身近な自然の保全とふれあい推進事業 (P297)

③循環型社会の推進【拡充】



循環型社会の推進のため、ごみの減量化・資源化等を進めます。

ごみの減量化・資源化、適正処理や環境美化を図るため、ごみトークや子どもごみ教室などを行うほか、長年、市民と横須賀市が一体となって環境美化活動に取り組んでいるクリーンよこすか市民の会の50周年記念事業などで意識啓発を図ります。

また、豊かな海を守るために、海洋プラスチックごみ対策アクション宣言に基づき、横須賀市や事業者間などで連携した取り組みを行い、輪を広げ、機運を高めていきます。

さらに、家庭での生ごみ減量化のため、生ごみ処理機の普及を促進します。特に、電気を使わず土の中に住む微生物の力等で生ごみを分解する非電動型の生ごみ処理機購入費の補助率を引き上げます。

(主な関連事業)

クリーンよこすか推進事業 (P291)

減量化・資源化啓発事業 (P291)

生ごみ減量化推進事業 (P292)



▲③生ごみ処理機

(3) 公園の整備・活用

○重要業績評価指標 (KPI)

項 目	現状値	目標値 (2025 年度)
ソレイユの丘（長井海の手公園）の来園者数 2023 年度リニューアル後の年間来園者数	70 万人 (2021 年度)	100 万人
公園施設のうち、長寿命化対策を実施した施設数 国庫補助金の活用により、長寿命化対策を実施した施設数	27 施設 (2021 年度)	91 施設 (累計)

①新たな公園の整備【拡充】



地域の拠点となる公園の整備を行います。

衣笠地域にある大矢部弾庫の跡地は、戦後、自衛隊等の弾薬庫の保管、補給で使用されていた、文化財と自然が残る広大な敷地です。国と取得に向けた協議を進め、整備・活用に向けた調査を開始します。

また、久里浜地域では、横浜 F・マリノス練習場が令和 4 年度（2022 年度）にオープンします。

（主な関連事業）

久里浜 1 丁目公園グラウンドほか整備事業（P282）

大矢部弾庫跡地活用検討事業（P301）



▲①横浜 F・マリノス練習場（イメージ）

②公園のリニューアル【拡充】



魅力や利便性を高めるために、公園をリニューアルします。

県内でも有数の集客施設であるソレイユの丘はリニューアルを行い、グランピング施設やカフェレストランを整備して集客力を高めます。

はまゆう公園は運動場を人工芝に変え、砂ぼこりや水はけの問題を解消します。

(主な関連事業)

はまゆう公園施設改修事業 (P281)

長井海の手公園隣接地活用事業 (P284)

③公園の計画的な維持管理



利用者がいつでも安全に安心して使えるように、維持管理を行います。

大規模公園から地域の公園まで計画的な改修を進めます。国の補助金を財源として活用できるよう、老朽度などの状態を調査して長寿命化計画を策定するほか、地域に身近な公園のトイレのバリアフリー化、遊具・設備の新設を行います。

(主な関連事業)

大規模集客公園施設改修事業 (P283)

地域拠点公園施設改修事業 (P284)

公園リニューアル事業 (P300)

公園施設長寿命化計画策定事業 (P300)



▲②ソレイユの丘

○令和 6 年度予算の重点投資

柱 5 未来につなぐ環境の保全・創出

(総合戦略 基本目標 5 地球温暖化対策を進め、循環型社会を形成する)

<主な取り組み>

(1) 地球温暖化対策の推進

◎ゼロカーボンシティの推進

「ゼロカーボンシティよこすか 2050 アクションプラン」で掲げた「二酸化炭素排出量の実質ゼロ」を目指すための取り組みを進めます。

- ・公共施設の照明 LED 化
- ・国の交付金を活用した脱炭素化の推進
- ・民間企業と連携した公共施設やマンションなどへの EV 充電器の設置推進
- ・民間企業などと連携したブルーカーボンの推進



(2) 自然環境の保全・活用と循環型社会の推進

◎クリーンよこすか運動の推進

きれいで住みよい心豊かなまちづくりの実現のため、環境美化活動やあいさつ運動など「クリーンよこすか運動」を推進し、「クリーンよこすか」の精神を次世代につないでいきます。



(3) 公園の整備・活用

◎大矢部弾庫跡地の活用

民間事業者と連携しながら、歴史と自然が一体となった公園整備を行います。(R8 年度供用開始予定)

